

3. 2017 年度活動概要

多文化共生と英語教育研究会は 2017 年度の活動テーマを「多文化多言語環境における英語と英語教育」とし、主に、2016 年度から実施してきた調査研究のまとめと分析を行いました。この研究は、大学生の 1. 多文化多言語社会への意識、2. 英語の国際性・英語教育・英語力への認識、3. 多様な英語への受容性（国際英語論的態度）に関する傾向と、これら 3 点の関連性の検証を目的としたものであり、中部圏を中心とする 8 大学の大学生 589 人を対象に、「多文化共生と英語」に関する 37 項目の意識調査を実施したものです。

調査時の想定として、1) 海外渡航体験や外国人との接触体験の多さと多文化共生への受容性には相関性があるのではないか、2) 多文化共生への肯定感と英語学習への意欲には相関性があるのではないか、3) 国際英語論の知識が「多様な英語」への受容性や母語話者英語への態度に影響を持つのではないかと、などの仮説が設定され、調査の結果、全体傾向として仮説 1) 2) は概ね支持されましたが、3) は部分的な支持に留まりました。調査項目群で相関性がみられたのは、「多文化共生への肯定感と、異文化教育の必要性への意識」「英語使用経験と、英語力への自信」「欧米への憧れと、母語話者英語への憧れ」「外国人への差別意識傾向と、機械通訳・翻訳の普及による英語学習不要化の予測傾向」その他であり、全体傾向として、多文化共生や英語学習に関しては女性の積極性が高く、明確な男女差が見られたことも注目点となりました。研究結果は、JACET 第 56 回国際大会において「多文化共生・英語学習・英語の多様性に関する 8 大学での意識調査」として発表を行っています。

また、The 22nd IAWE Conference (Syracuse, NY.) において、Grammatical and Pragmatic Features of Japanese English: an Analysis of 19 Essays' と題して国際英語論の立場から、日本人の発想と日本人の英語表現に関する研究発表を行いました。2018 年度も、引き続き、社会言語学的な視点から、多文化環境における英語と英語教育の諸相を取り上げ、教育現場での評価法にも結び付けていく予定です。